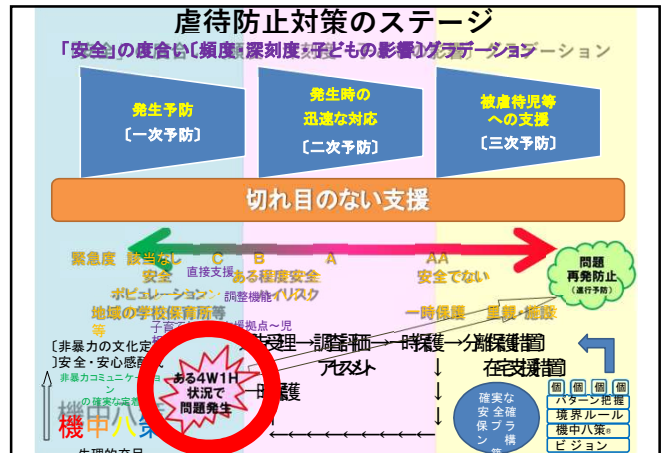


妊娠期からの児童虐待防止に関する研修  
児童相談所における予防的対応  
～養育者主体の“子ども安全”づくりに向けて～



視聴期間: 令和2年11月24日～12月24日  
千葉県柏児童相談所 所長 渡邊 直



児童相談所における虐待対応の現状

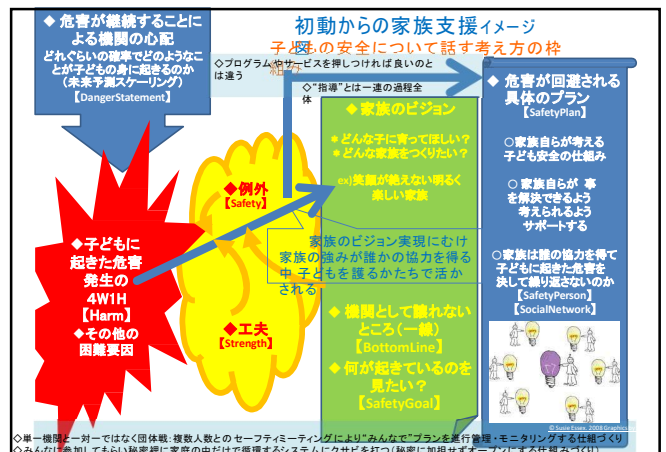
- 児童相談所 子どもに関するあらゆる問題について家族などからの相談に応じる **行政機関**
- 児童相談所の仕事  
相談判定 市区町村支援 **一時保護** 措置
- 近年の虐待対応: 地域に住む子どもの“安全・安心”に重大な問題があるという疑いがあるという通告がなされると、家族が望んでいなくても声掛けをする
  - 申請主義(相談・支援: 契約) ←採算性 2000年まで
  - 職権主義(介入: 措置) ←公共性 2000年以降
- 通告受理機関(市区町村と児相) 行政側の判断(通告)によるスタート

児童相談所における虐待対応の現状

- さらに頻度・深刻度・子どもの影響性によっては…  
または 子どもの姿が確認できない  
養育者が養育姿勢を変えようとしてない  
(しつけであり虐待ではないとの主張を変えようせず  
子どもに対する養育者による権利侵害行為が止まらない)
- より強い権限行使をしなくてはいけない  
一時保護(家庭という密室の中で何が起きているのかを調査するための保護を含む) さらに強い対立
- 「子どもを返せ〜!!」と乗り込んでくる力を利用してレバレッジ(leverage)「てこ(レバー: lever)の原理」援用  
対話の土俵に乗ってもら返さないとはいっていない  
いつもと違って何があったから大事(おおごと)になった  
いつもはけどうまくやっている?

児童相談所における虐待対応の現状

- なぜ声掛けするのか  
子どもの安全に関する共同責任  
公共性 > 採算性
- 権限行使をすることに対して  
説明責任(合意形成)
- 「通告したのは誰だ」  
「勝手に家庭の事に口出ししやがって」など  
児相の権限行使を **不本意**に感じる人も多い
- 対立してしまいやすい(ニーズの不一致)  
ニーズが伴う申請主義に対する対応とは違う



### 児童相談所における虐待対応の現状

- 一時保護がゴールではない
- アプローチ(スタンス)にかかっているところがある
- 一方、介入する側も対立構造を嫌う  
ケース対応が怖い、どう言ったらいいかわからない、  
所属からの通告は所属での見守り  
次何かあったら知らせてください  
で終わりにしてしまったり・・・  
事を荒立てたくない所属と対応を忌避する通告受理機関

Win-Win



- 見守りという名の放置無かったことになってしまう

### 児童相談所における虐待対応の現状

#### 聞かれたら“助言”してしまう

- 相談:助言・指導、その他の援助  
相談援助に従事する者の魂「どうしたらいいか?」と聞かれると答えたくなる  
助言すると「責任」は助言した側にくる  
(あなたがいうようにやったけどうまくいかないじゃない)  
安全責任は親に第一義的にある  
申請主義ベースなら「助言」スタンスは通用するかもしれないけど、  
子どもの安全問題に関してであると聞かれて答えた側にその責任が返ってきてしまう  
(責任主体の問題+当事者モチベーション空洞化)
- 家庭という密室において子どもの安全を作っていく主体  
それは家族であり私たち支援者ではない
- 援助者が一生懸命になるのではなく 家族が一生懸命になれた方がいい

### 児童相談所における虐待対応の現状

#### 寄り添い過ぎの姿勢

- 親御さんの気持はわかります
- お子さんには特徴があるので確かに育てにくさがあるかもですね
- それゆえにお子さんに合った対応の仕方を知っておいた方がいいです
- 児相の心理の先生にみてもらいましょう

#### 子どもが問題フォーマット

知らず知らず **性格行動**相談の主訴に変容してしまう

### 児童相談所における虐待対応の現状

相談:助言・指導、その他の援助

助言とは一般的なシンプルな**アドバイスではない種で即効性のある**、どこにでもありがちな、**「常識的な」ものでも「一方的な」ものでもない** 対象者のプロセスに応じた、きめ細やかなもの

相談も、単なる日常的な相談ではなく、対象者の過去、現在、これからを踏まえて行い、相談時の様子にも注意する

- \*きわめて微妙に調整されたもの
- \*上から下への指導となったり 知識やサービスを一方的に提供するという関係になりがち・・・
- \*横並びの関係や対象者の主体性を引き出す関係

公認心理師必携テキスト 公認心理師の役割 抜粋

### 児童相談所における虐待対応の現状

- 虐待は子どもの問題ではない
- 親(行為者)の行動言動選択の問題
- そのことにより子どもが怖くて嫌な痛い辛い思いをする
- 子どもを取り巻く家族全体(拡大家族+)を対象
- 対話(アセスメント)を通じて(対話により家族と協働関係を創り)子どもの安全の確保を軸に家族の自己組織化を促進し家族が主体(者として)で子どもの安全づくりを構築する(当事者性)ことを支援するスタンス
- 家族を変えるのではなくシステムを変える
- 危害発生パターン時の親の認識を変える<システムを変更し回避する(家族のみならず家族の関係者や複数の人々を対象)
- 変容モデル<回避モデル

### 児童相談所における虐待対応の現状

#### 注意喚起のみの対応

「虐待はしちゃダメですよ」  
「子どもに悪影響がありますからね」  
「今の対応を続けると子どもの問題行動が逆に増えていきますよ～」

- 虐待(親)や非行(子)など  
ニーズの乏しいところに権限行使  
「いうことをきかせよう」と上から  
命令、助言・指導、指示、訓戒、誓約 等をしようとする  
ヒトは「いうことをきいてくれる」ようになるか  
むしろあからさまな反発[あるいは面従腹背の構造]とならないだろうか  
「非暴力で!!」と命令、指示、誓約事項が義務になった瞬間 つまらないものになる ヒトから強制されたらそれらが“仕事”になって楽しさなどは消えてしまう 主体的なモチベーションが低下する

### 児童相談所における虐待対応の現状

- 注意喚起のみの対応
  - 「虐待はしちゃダメですよ」
  - 「子どもに悪影響がありますからね」
  - 「今の対応を続けると子どもの問題行動が逆が増えていきますよ～」

~~~~~

- 子どもの安全を確保することは対人関係の交渉の中(プロセス)で行うこと
- ルールを押しつけただけですと中味が空洞化する
- ルールの徹底化で対人交渉は成立しない
- 必要なのは、子どもを守るための一貫した連続性のある対話による関わり
- それが関係者でできるようになる共通言語の形成 質問するプロセス
- そのための進行管理を適正にできる体制が実現できること (当事者モチベーション空洞化+責任主体の問題)

### 児童相談所における虐待対応の現状

申請主義(相談・支援・契約)と職権主義(介入・措置)

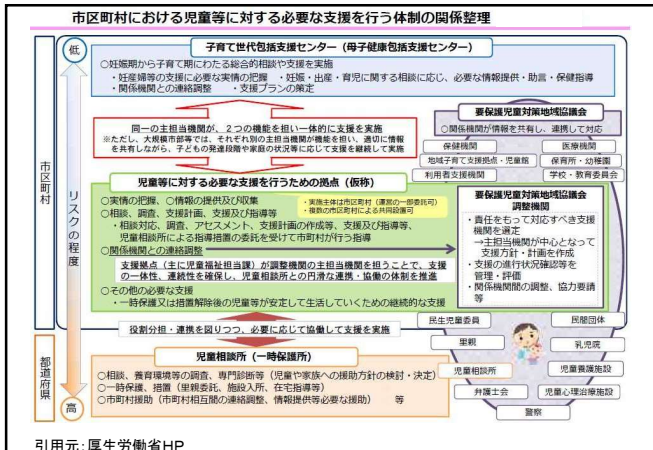
- このような子どもの**“安全”に係る仕事**は、一人で一つの機関で対応できるものではない
- 多機関連携(要保護児童対策地域協議会、保健医療、里親・児童福祉施設、教育、刑事司法等)のもとでの仕事
- “つなぐ”≡みんなが**繋がる**≡[抱え込まない]

### 児童相談所における虐待対応の現状

- 注意喚起のみの対応
  - 「虐待はしちゃダメですよ」
  - 「子どもに悪影響がありますからね」
  - 「今の対応を続けると子どもの問題行動が逆が増えていきますよ～」

~~~~~

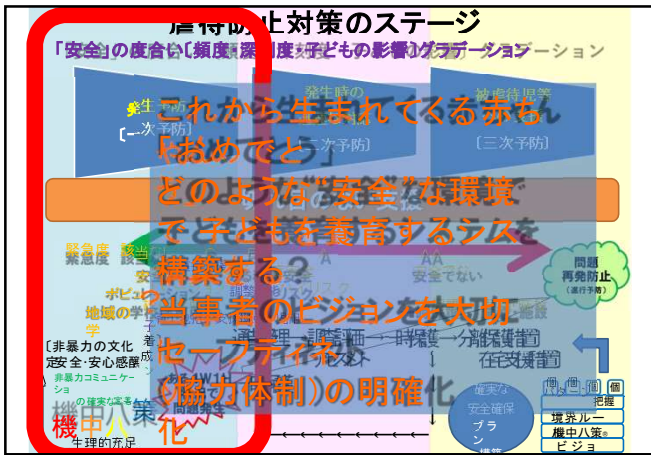
- 社会の反応としても(知らされると)子どもへの権利侵害を“しないでほしい”と。そして援助者もその熱い思いを抱いてしまう。
- 「機中八策」でいう当事者へのブルーカード切り コラーゲンは熱に弱い・・・



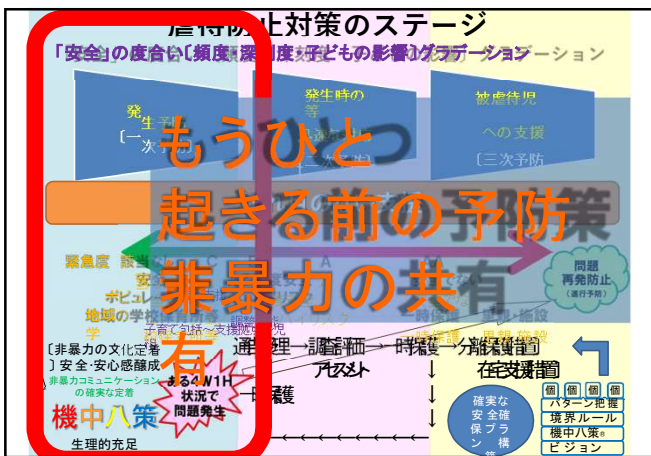
### 児童相談所における虐待対応の現状

- やった・やらない 議論 に陥ってしまう
  - 刑事司法 法医学連携 虐待の疎明 虐待を認めさせる
  - もちろんアンカーポイントはわかった方がいい
- しつけと虐待 議論 に陥ってしまう
  - 親の意図ではなく子どもが親の行為言動をどうとらえるか 子ども虐待問題は子どもの安全安心の問題





- ・非専門的で、プログラムではないもの、頭文字つづり程度で覚えられ、気楽に習得できるパッケージ程度のも
- ・これを各個人にインストールするイメージ
- ・援助者も日常生活の中で、例えば、子どもや夫婦間、上司と部下など、感情移入しやすい近い人と始終同じ顔を突き合わせていると、キレる沸点が低くなりトラブルも増えるものである
- ・けど、そのイライラを「怒鳴る」とか「叩く」「いやみをいう」「デイスる」「否定する」という暴力的なコミュニケーションで発散してほしい。いわば「いじめ」になる前に、いったん立ち止まって離れ、落ち着いてほしい
- ・では、気づくにはどうしたらいいか。それは「ひどいおとぎばなし」という行動とばのカードを切りそうになった時がサインである



あなたは 相手がしてほしい行動をした あるいは してほしい行動をしない そんな場面に直 どの色面した時 行動・ことばの切り札を切りますか？

▼コミュニケーションを円滑にする オレンジカード	▼伝わりにくいコミュニケーションブルーカード
ほ ま める (褒める)	ひ ていけい(否定形)
れ んしゅう(練習)	ど (怒)鳴る叩く
か わり(代)にすることを提示	い や(嫌)み
が んきょう(環境)づくり	お ど(脅)す
いつも ちがって おどやかに しずかな 環境	と (問)う聞く考えさせる
や くそく(約束)	ぎ (疑)問形
ま きもち(気持ち)に理解を示す	ば つ(罰)をあたえる
ちつく(落ち着く)	なし なじる(人格否定形)

どならない  
ディスらない非暴力コミュニケーションの具体策  
対話をスムーズに進めるコツ  
非暴力コミュニケーションにより、たくさんの成功体験を!!

**機中八策**

児童相談所長が考案した非暴力コミュニケーションパッケージ

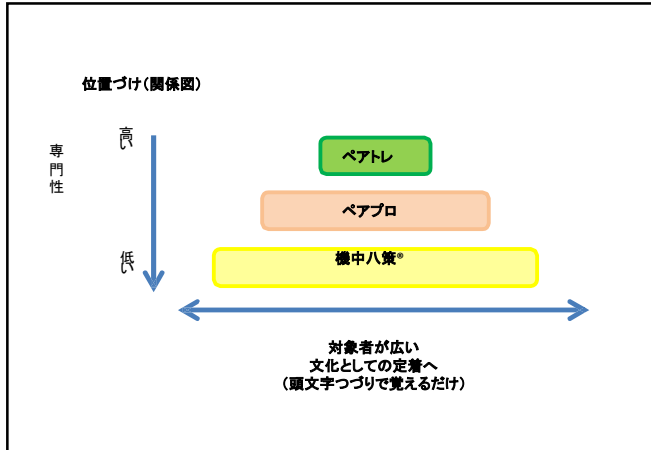
コミュニケーションを活性化させるカラーゲン  
頭文字つづりで覚える非暴力コミュニケーションの具体策 やる気をアップさせる八つの秘策

児童心理司の業務実態と専門性向上に関する調査研究  
事業報告書

令和2年3月  
厚生労働省

表4 調査対象プログラム一覧

#	プログラム名
1	ボーズタウン・コモンセンスペアレンティング (BTCSP)
2	Parent-Child Interaction Therapy; 親子相互交流療法 (PCIT)
3	CARE™(Child-Adult Relationship Enhancement)
4	Triple P
5	AP-CBT
6	TF-CBT
7	精研式ペアレントトレーニング
8	MY TREE ペアレント・プログラム
9	The Circle of Security Program (COS)
10	「安心感の輪」子育てプログラム (the Circle of Security Parenting Program)
11	親子関係再構築プログラム CRC 親子プログラムふあり
12	Positive Discipline in Everyday Parenting (PDEP)
13	ポジティブ・ディシプリン〜日々のしつけを考えるために〜 Nobody's Perfect



### 例:宿題をせずテレビを見ている

#### ブルーカード

- |                       |    |             |
|-----------------------|----|-------------|
| 1. 何やってんの             | ぎ  | 疑問形         |
| 2. いつも言ってるでしょ         | ど  | 怒鳴る(叩く)     |
| 3. テレビばっか見るなって        | ひ  | 否定形・禁止      |
| 4. 今日は承知しないよ          | お  | 脅す          |
| 5. TVばっか見てるから一週間TVなし  | ば  | 罰を与える       |
| 6. 今、何する時間?宿題はやったの?   | と  | 問う・聞く・考えさせる |
| 7. 何回言ってもわからないバカじゃないの | なし | なじる(人格否定)   |
| 8. いつもこうだいいのにな        | い  | 嫌みを言う(一言ネガ) |

- 非専門的で、プログラムではないもの、頭文字つづり程度で覚えられ、気楽に習得できるパッケージ程度のも
- これを各個人にインストールするイメージ
- 援助者も日常生活の中で、例えば、子どもや夫婦間、上司と部下など、感情移入しやすい近いヒトと始終同じ顔を突き合わせていると、キレる沸点が低くなりトラブルも増えるものである
- けど、そのイライラを「怒鳴る」とか「叩く」「いやみをいう」「ディスる」「否定する」という暴力的なコミュニケーションで発散してほしくない。いわば“いじめ”になる前に、いったん立ち止まって離れ、落ち着いてほしい
- では、気づくにはどうしたらいいか。それは「ひどいおとぎばなし」という行動とばなしカードを切りそうになった時がサインである

### なぜ、このような状況に?

- ヒトとしての反応
  - 自己保存(ブルーカード:ひどいおとぎばなし)つい反応してしまう



ひ 怒鳴る	ど 叩く	い いやみをいう	お 脅す	と 問う・聞く・考えさせる	ぎ 怒鳴る(叩く)	ば 罰を与える	なし なじる(人格否定)
----------	---------	-------------	---------	------------------	--------------	------------	-----------------

その時は意識的にスイッチを入れて「ほまれかがやきを」のカードに切り替えること

ほ 褒める	ま 待つ	れ 練習する 注意 一緒にする	か 代わりに する 代わりの 言葉 を 使 う て 話 す	が 感情 づ つ い ら ぬ い ら ぬ	や 約束	き 感情 づ つ い ら ぬ い ら ぬ	を 落ち離く
----------	---------	--------------------------	---	---	---------	---	-----------

\* (いちおし)とは(いつもちがって)おだやかに(しずかに)の頭文字つづり

- 「ほまれかがやきを」カードが切れるようになるためには、少しの練習が必要となる。繰り返すことによって「形(かた)」として取り入れ定着させ、無意識的に動かしていけるようになるのである
- これが「機中八策」という頭文字つづりの合言葉で覚える非暴力コミュニケーションの具体策である

### 気づきスイッチ

- 自分の傾向に気づく
- ブルーを切りそうになったら(基本こちらは無意識的の反応として切ることが普通)
- ストップ
- 既に持っている切り札カードだけど意識しないとなかなか切れないオレンジへ意識して切り替えるその装置

### 装置

オレンジカード		
1. 深呼吸(きりかえ)	お	落ち着く(感情)
2. 「テレビ消してくれる」等子どもも話せる状態を待ち	ま	待つ
3. 穏やかに静かに近づき(環境)	が	いちおし環境づくり
4. テレビ見たいよねでも	き	気持ちに理解を示す
5. まずは宿題してほしい	か	代わりに行動を提示
6. わかった? 『わかった』	や	約束
7. じゃ学校から帰ってきたらまず何する?	れ	練習(確認・回復)
8. えらいありがとう宿題終わったらTV見ていいよ	ほ	褒める

どちらの方が、子どもとの関係性がいいまま行動(言動)を社会的にOKな方向にスムーズに切り替えていってもらえそうですか?

### 「機中八策®」とは

専門性の高いペアレント・トレーニングでもペアレント・プログラムでもありません

- どこにでもある、誰もがあたり前のように使っている行動・言葉をカード化して、「ひどいおとぎばなし」「ほまれかがやきを」と、頭文字つづりで覚えやすいようパッケージ化したものです。
- 暴力的な雰囲気を出し、そのカードを切られた人が青ざめてしまうような行動の切り札は、ブルーカードとして「ひ・ど・い・お・と・ぎ・ば・なし」の8枚
- 非暴力的な雰囲気の中で、そのカードを切られた人がほっこり温かな気持ちになる行動の切り札は、オレンジカードとして「ほ・ま・れ・か・が・や・き・を」の8枚としました。
- 合計16枚のカードで非暴力コミュニケーションに気づきやすくするための「気づきスイッチ(≒装置)」です。
- 2012年の日本子ども虐待防止学会(JaSPCAN)高知りょうま大会の「帰りの飛行機」の中で聞いたので、「機中八策®」と命名しました。
- 「ほうれんそう」や「いかのおすし」「まごはやさしい」など同じように、非暴力を頭文字つづりで覚え、地域で「非暴力って「ほまれかがやきを」でしよう」と、あたり前なものとして「文化」として定着していけたら幸いです。

### なぜ、このような状況に?

・ ヒトとしての反応

一種の保存(オレンジカード: ほまれかがやきを) 持ってない手持ち札ではない 冷 前頭葉 静であれば切れる けどなかなか切れるものではない だから練習が必要になる

- ブルーカードは無意識的に切れるカードです(自己保存反応)
- オレンジカードは手持ちの切り札として既にお手持ちのカードだと思います。しかし、ヒトには感情があるので、意識しないとオレンジカードは、切れるものではありません(種の保存反応)
- あなたがブルーカードを切る傾向にあるならば、オレンジカードが切れるようになる「気づきスイッチ(装置)」として「機中八策®」を活用してください
- 日常生活でオレンジカードがスムーズに切れるようになるには「練習」が必要です
- 子どもはオレンジカードを切られることで「これでいいんだ」という自信・自己肯定感・自己効力感が醸成されます
- たくさんの成功体験をした子どもは自分で自分のことができる(考えられる)ヒトとして育ちます

その時は意識的にスイッチを入れて「ほまれかがやきを」のカードに切り替えること

\* (いちおし)とは(いつもちかづいておだやかにしずかに)の頭文字つづり

- 「ほまれかがやきを」カードが切れるようになるためには、少しの練習が必要となる。繰り返すことによって「形かた」として取り入れ定着させ、無意識的に動かしていけるようにするのである
- これが「機中八策®」という頭文字つづりの合言葉で覚える非暴力コミュニケーションの具体策である

- このようなシンプルなるものをスピーディーに自分にインストールし、チームの共通言語とする
- でも、これをひとりで完璧にできるよう気負わなくても構わない
- ひとつのユニットチーム家族内だけではなく、地域のみんなの合言葉とできれば、お互いに声かけあう、穏やかにつながり支えあえられる、人に優しいコミュニティー文化が醸成できるであろう
- ひとつのチームの中の雰囲気が形成されると、それが機関と機関との間の対話においても可能となり、さらには援助者と養育者等との対話、そして、地域全体に非暴力コミュニケーションで繋がれることの「入れ子の構造」モデルとしての輪が広がりとして般化させるのである

- ・援助者の元気が家族との対話においても上から目線にならずに済む余裕につながり、フラットで脅かされることのないパラレルプロセスの実現になると思われる。もって注意喚起“プラス”の対応が恒常的に可能となる組織づくりに寄与すると思われる
- ・一方、子どもの体験レベルでは、家庭内だけでなく、その子どもが過ごす多くの場面において、護り抜かれる安心感、安定感が確保されるもて、「それでいい」と“良い”が出される地域文化が形成されると、ヒトに優しいつながりあえる共生へと展開すると思われる

### やれたらいいなと思うこと・・・

- ・発生してからかかわるく 発生する前に手を打つ  
本当は・・・起きる前の予防策の社会的構築化
- ・サービスを充実するだけでは体罰・暴言は減らない
- ・社会全体の体罰や不適切養育を容認する育児文化の修正  
幼児、思春期、大人同士・・・世代性別・・・共通言語化

## 非暴力の共有

ひとりでは難しい マリマインドできる地域再生  
雰囲気づくりを“文化”としての定着へ

- ・そのためにできることに取組み、沢山の成功体験を地域で!!

